

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

2020年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0044

所在地 東京都世田谷区赤堤1-10-23 三井ハイム102

評価機関名 合同会社フェアリンク

認証評価機関番号

機構 12 - 213

電話番号 03-6379-1449

代表者氏名 加藤浩之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤浩之	福祉、経営	H0201050
	②	津留明子	福祉	H1601066
	③	田鹿 勉	経営	H1301026
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	清瀬どろんこ保育園			
事業所連絡先	〒	204-0022		
	所在地	東京都清瀬市松山3丁目1番24号		
	TEL	042-494-8166		
事業所代表者氏名	山田千恵			
契約日	2019年 10月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 11月 21日			
利用者調査結果報告日	2020年 1月 23日			
自己評価の調査票配付日	2019年 11月 21日			
自己評価結果報告日	2020年 1月 23日			
訪問調査日	2020年 1月 27日			
評価合議日	2020年 2月 15日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査では保護者に対する書面によるアンケート調査を実施。施設長名の依頼状及び調査票、返送用封筒の3点を対象者の人数分の封筒に封入し、園に送付のうえ、子どもの送り迎えの際に保護者に配布してもらった。 ・利用者調査の一環として、保育士の資格を有する担当評価者が午前中の戸外保育や、園児と同じ献立の給食を試食しながら食堂での昼食の様子を観察した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020年 月 日

事業者代表者氏名 理事長 高堀 愛香

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」のある子どもを育てる遊びの機会と環境をつくれます。 2)保護者のニーズをとらえ、保護者満足度の高いサービスを行う。 3)地域みんなが子どもを育てるコミュニティーづくりを目指します。 4)一人一人が提案、実行できるパワーのある保育者集団を目指します。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに一番近い保育者が子どもに必要な体験を提案し実行できる。</li> <li>・保育者自身が自己成長を意識する。</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>自分のクラスの子どもはもちろんのこと、保育園全体、保育園に通園していない在宅の子ども、日本全体の子どもたちに自分たちは何ができるかを常に意識する。</p>

調査対象	アンケートの対象は調査実施時点で在籍している子どもの保護者全員(ただし世帯単位)。2人以上の子どもが同じ通園している場合は、年齢がいちばん下の子どものクラスに関して回答してもらった。		
調査方法	書面による無記名式のアンケート調査を実施。共通評価項目に対し「はい」「どちらとも言えない」「いいえ」「非該当・わからない」の4つの選択肢を用意。依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を園経由で保護者に配付し、記入後、評価機関に直接郵送してもらった。		
利用者総数	89		
利用者家族総数(世帯)	78		
共通評価項目による調査対象者数	78		
共通評価項目による調査の有効回答者数	38		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	48.7		

**利用者調査全体のコメント**

回答率は50%を若干下回った。調査期間が年末に差し掛かる時期だったとはいえ、ほぼ同じ条件で実施した系列園と比較してもかなり低い結果となっている。共通評価項目全体で、肯定的な回答(はい)の割合は約59%、その中で、保育の内容に関する設問(問1～問4)では、その割合が8割前後に達している。その一方、「どちらとも言えない」「いいえ」の回答を合わせた割合は約33%で、中でも問6(安全対策)、問17(外部の相談窓口の説明)ではその割合が50%を超えており、問9(園内の清潔・整頓)、問11(子どもの病気やけがへの対応)、問12(子ども同士のトラブルへの対応)、問15(保育内容に関する説明)でも4割台に上っている。共通評価項目に加え、設問の最後に保育に対する総合的な満足度を5段階で尋ねたところ、最上位の「大変満足」が約24%、以下、「満足」が約40%、「どちらとも言えない」が約18%、「不満」が約16%、「大変不満」が約3%という回答結果だった。利用者調査の一環として、保育士の資格を持つ担当評価者が午前中の戸外保育、及び食事の場면을観察(子どもと同じテーブルで給食の試食も実施)し、その結果を訪問調査の際に園長に報告した。

**利用者調査結果**

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	31	6	0	1
実際の調査票の質問文(以下、Q):園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	30	6	1	1
Q:園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	31	6	0	1
Q:園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	30	6	1	1
Q: 戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	25	7	1	5
Q: 急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれていると思いますか				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	18	9	11	0
Q: 安全対策が十分取られていると思いますか				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	26	7	4	1
Q: 行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされていると思いますか				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	25	6	6	1
Q: お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて職員と話したり相談することができるような信頼関係があると思いますか				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	20	14	4	0
Q: 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか				
10. 職員の接遇・態度は適切か	23	9	5	1
Q: あなたは、職員の言葉遣いや態度、身だしなみなどが適切だと思いますか				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	22	11	5	0
Q:子どもがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	15	10	7	6
Q:子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	25	10	1	2
Q:あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	18	9	1	10
Q:あなたやお子さんのプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	21	10	7	0
Q:お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすいと思いますか				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	15	11	4	8
Q:あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	7	8	12	11
Q:あなたが困ったときに、職員以外の人(役所や第三者委員など)にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">〇非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">〇非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float: right;">〇非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	施設長は特殊な形態にある園の運営責任者として、課題の解決に継続的に取り組んでいる 法人グループが共通の理念・方針のもとで保育関連事業を全国に展開している。一体的な管理体制のもと、本社がエリアごとに各事業所の運営をサポートしている。当事業所は隣接する病院の院内保育所として2013年に開設し、現在も一般の保育とは別に院内保育専用の定員を設け、24時間体制で運営している。施設長は開設以来、特殊な形態における園の運営責任者として、法人の理念・方針に基づき、統合的な保育の展開と課題の解決に取り組んでいる。今回の利用者調査及び職員自己評価の結果をていねいに読み解き、改善につなげることが期待される。	
	事業計画策定のプロセスや園内研修の実施において職員の参画を求める取り組みがある 法人共通の枠組みの中で、年度末の職員会議において当年度の振り返りをもとに次年度の事業計画を検討している。事業計画書には園の基本方針に続いて年度の重点課題が記載され、施設長が特に力点を置く項目が表示されている。人材育成の取り組みとして、職員の参画意識や他者理解を高め、職員間のコミュニケーションの活性化を図る園内研修の実施を謳い、事務室に『園内研修の目的』や『園内研修のルール』を掲示している。職員に求める問題意識や心構えが記されており、施設長のリーダーシップに加えて職員の運営参画を推進する取り組みがうかがえる。	
	保育の理念や目的等について保護者の理解を深めるためのていねいな説明が期待される 法人が目指す保育の基本理念や目標については、写真や解説が加えられたパンフレットやホームページ等に明示している他、入園時の面談や年2回開かれる保護者会、行事等の機会に保護者に説明している。今回実施した保護者アンケートの結果では、回答率が50%に満たない中で、総合的には3分の2程度の保護者が満足と回答している一方、自由記述欄のコメントからは園の保育のねらい等の説明については改善の余地がうかがえる。その原因を冷静に分析したうえで、保護者の目線に合わせた、よりていねいな説明方法の工夫に向けた検討が期待される。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
2 カテゴリー2の講評		
<p>法人による外部環境の分析と園が集約した保護者の意向の結果を改善に活用している</p> <p>法人のマネジメントシステムにおいて、保育サービスに関連する法制度についての情報収集は施設長の役割となっているが、実際には本社が中心となって、関連する法制度の改正や社会・経済環境の変化、業界の動向等に関する情報の収集を行い、幹部会議における分析結果を毎月の施設長会議や研修等の場で職員に伝えている。園では、保護者との日常的なやり取りの中でニーズの把握に努めるとともに、法人全体として年1回実施するアンケートを通じて保護者の意向を集約し、保育の振り返りと継続的な改善に活用している。</p> <p>保育の全体的な計画との関連を整理しながら事業計画書の内容を吟味することが望まれる</p> <p>法人のフォーマットに沿って単年度の事業計画書を作成しており、その最後に「3か年計画」として、各年度の目標を一文で謳っている。年度ごとに作成する事業計画書とその対となる事業報告書について、園の運営管理の仕組みの中でどのような役割を果たすものなのか、付表を含む保育の全体的な計画との違いや関連を整理したうえで、必要な内容を吟味することが期待される。事業報告書においては、事業の実績報告と併せ、計画に照らしての一年間の取り組みの評価及び分析をおこなったうえで、次年度の事業計画につなげていくことが期待される。</p>		

3 経営における社会的責任		
カテゴリー3		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的を確認している	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当



サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-3の講評

法人全体として定期的な内部監査や自己点検の仕組みを整え、法令遵守体制を整えている

各園における書類の整備状況や日々の職員配置の状況等について、法令の要件を満たしているかを本社が一元的に管理する仕組みを整えている他、法人全体として独自の点検項目に沿って3か月ごとに内部監査を実施している。また、職員一人ひとりが日常の子どもに適切に対応しているかを共通のチェック項目で自己点検する取り組みを年2回実施している。以前より整備してきた法人全体の内部通報制度を職員がより利用しやすい形に改め、園内での法令違反や子どもに対する不適切な対応が疑われるケースに早期に対応できるように努めている。

虐待防止に向けた関係機関との連携体制や外部に対する透明性の確保に努めている

家庭での子どもの虐待が疑われる場合は、法人役員の指示に基づき、関係機関と連携して対応する体制を整えている。また、園からの依頼により、市の児童発達・相談支援の総合センターの職員が年4回定期的に来園し、特に配慮を要する子どもの様子を観察しながら、園の職員に個別の支援方法について助言している。その他、保育士養成校等からの実習生や近隣の小・中学校の児童・生徒によるボランティア等の受け入れなどを通じて、外部の目が園内に入る機会は多く、今後、客観的な視点からの気づきを運営に活かす仕組みを整えることが期待される。

保育の体験等を通じて地域の子育て家庭を支援する事業の周知に努めている

法人全体として、保育の全体的な計画に基づき、地域の子育て家庭を対象に、園での制作活動や公園での集団遊びを親子で体験する中で、遊び方のヒントを学んだり、日頃の育児の悩み等を保育士に相談することでストレスの解消に役立ててもらい取り組みの全園での展開を目指している。当園でも予定表を作成し、昨年度は新たな取り組みとして、出産を迎える親を対象にした学習会を実施した。今年度は職員を対象とした保育のスキルアップ講座を一般公開し、保護者や地域の子育て家庭にも参加を呼び掛けている。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>個人情報データ管理され、アクセス権限による漏えい防止策と利便性を備えている</p> <p>利用者の個人情報は、クラウドサービスによりデータ管理され、アクセス権限を設けることにより管理されている。また、保護者との連絡事項も専用のアプリを活用し、タイムリーに情報を伝達できるようになっている。事業所にとっては、登園や休園の管理、各種情報の発信など利便性や効率性を考慮した仕組みとなっており、画像の取り込みや発信も行えるため正確な情報収集や伝達も行える記録となっている。</p> <p>子どもの命を守るための実践的な研修や緊急時の対応整備に取り組んでいる</p> <p>不審者の侵入を想定した訓練について、警察官の指導を受けながらロールプレイをおこなったり、ノロウィルスの吐瀉物処理について豆腐を使用した訓練を実施するなど、実践的な状況で研修をおこなっている。事務室には食物アレルギーのある子どもの顔写真とアレルギー物質及び対応方法が一目でわかるような掲示を貼り、職員の注意を喚起していた。また、子どものアナフィラキシー反応に備えて、職員に救急救命講習を受講させるなど、子どもの命を守るための知識・技術の習得とともに、細やかな対応と緊急時の対応整備に取り組んでいることがうかがえた。</p> <p>災害の発生に備え、様々な想定のもとでの避難訓練の実施や食糧等の備蓄をしている</p> <p>毎月1回、年間計画に基づき、火災や地震等の災害の種類や発生の場所、時間帯等の想定の変えながら避難訓練を実施している。他、水や食糧、ミルク等の備蓄や非常設備の点検など災害や非常事態に備える取り組みをおこなっている。なお、当園は隣接する病院の院内保育も担っていることから、今後は病院とも連携しながら、大規模災害が発生した際の事業継続計画の策定に向けた検討を進めることが期待される。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇〇〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇〇〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

チームワークの向上による組織力の強化に取り組んでいる

法人として職員の確保と定着を最重要課題に据え、保育士については新規卒者の定期採用を軸に本社が一括して募集等をおこなっている。開設5年目を迎える中、職員集団の経験値を高めていくことが課題となっており、チームワークの向上による組織力の強化に取り組んでいる。

法人として望ましい職務遂行行動に照らして職員が自身を振り返る機会を設けている

法人の職員として望ましい職務遂行行動を冊子にまとめ、全職員に配布している。専門職としての倫理や子どもの権利擁護、保護者の立場の尊重等に力点を置いた内容となっており、それに基づいて職員一人ひとりが自身を振り返る時間を毎月の職員会議の冒頭に設けている。法人の理念・方針に連なる行動特性について、職員が日々の業務に引き寄せながら継続的に振り返りを行う中で自身の強みや課題を認識し、自己成長を促す取り組みとなっている。

法人の人材育成の仕組みに加え、園独自の工夫によって職員の成長を支援している

年2回、職員と施設長の個別面談を実施し、一人ひとりの仕事に向かう意欲の向上と成長を支援している。キャリアアップに対する本人の希望や考えと施設長の期待像をすり合わせたうえで具体的な目標や研修計画を立て、一年間を通じて継続的に支援する仕組みとなっている。法人の人事考課制度に加えて園独自で工夫している部分もあり、職員の育成に対する施設長の強い責任感がうかがえる。事務室には職員一人ひとりが年度初めに自身で宣誓した事柄を顔写真とともに掲示しており、目標の達成を相互に後押しする効果をねらった取り組みとなっている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

認可保育園となる前年の2013年に隣接する病院の院内保育所として開設して以来、特殊な形態にある当園の運営を担ってきた施設長は、職員集団が専門性を高めていくうえで、まずは“子どもをしっかり観る”ことを重点課題に掲げ、指導に当たってきた。昨年度は子どもの午睡時間中のミーティングに保育の振り返りを行う中で、子どもたちが何に興味を持っているかを知り、園庭の改良工事と併せて、子どもたちが自分たちで主体的に遊びを展開できる環境の整備を進めてきた。死角を生んでいた古い倉庫が撤去され、土の築山を中心に所々に自然の樹木を残した広い園庭に古タイヤやバスマット等の可動遊具を導入したところ、職員が想像した以上に子どもたちが創造的に遊びを発展させていく姿が見られた。

目標の設定と  
取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

今年度の事業計画では、子どもたちの遊びの変化を継続して観察しながら、集団で遊びを工夫する中で発展的に作り変えていく過程を通じて子どもたちの創造性に加え協調性や社会性を育むことを意図し、さらに創造力を刺激するような可動遊具の数や種類を増やしていくことを目標に掲げて、取り組みを進めている。自分たちの試みが子どもの姿の変化につながっていることで職員集団が自信をつけている様子がうかがえる。



評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

法人では10年以上前から年長児を対象に性教育を実施している。子どもが大人から性被害を受けるリスクに加え、性に関する不適切な情報に家族のスマホ等で簡単にアクセスできてしまう状況において、子ども間での性被害のリスクが高まる中、身近な大人が子どもに対し健全な性に対する知識を伝えることが何より重要として、指導のポイントを具体的に整理し、5歳児に対する保育において実践を進めてきた。当園では、命の大切さを伝える取り組みを重点課題の一つに位置付け、5歳児クラスでの性教育の一環として、子どもたちの親が自分の誕生をどのような思いで受け止めたのかを知り、一人ひとりがかけがえのない存在として生まれてきたことを認識する取り組みを保護者の協力のもとでおこなった他、戦争や東日本大震災を題材にした絵本等を使った教育にも力を入れてきた。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

今年度も引き続き子どもたちに命の大切さを知らせる教育を重点課題の一つに据えて、様々な保育の場面で展開していくことを方針に掲げている。園長は、「命の教育」に加え、インクルーシブ保育にも継続して力点を置いている。そこには、障害の有無にかかわらず、また、発達の違いに多少の違いがあっても命の重みには何ら差はなく、子どもたちが自分を大切に思い、同じように周りの友だちも大切に思えるようになってほしいという願いが込められている。園では、市の専門機関に依頼し、特別の配慮を要する子どもについて、園での生活の様子を観察を踏まえて、個別の支援方法に関する助言を定期的に受けている。今後、日頃の保育や集団生活において、すべての子どもの尊厳が等しく守られる関係性を育む取り組みを継続的に推進していくことが期待される。

## II サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>グループ全体のホームページにより、共通の保育理念や方針、保育目標等を案内している</p> <p>グループ全体のホームページを通じて、共通の保育理念や方針、保育目標等を案内している。系列園での子ども実際の活動や生活の場を撮影した動画や写真画像を使う他、必要に応じて英語及び中国語の表記への切り替えを可能とするなど、ユーザーの多様なニーズに配慮している。ホームページの問い合わせフォームから利用希望の園を指定して資料請求や見学希望のオーダーを送ることもできる。昨年度リニューアルしたホームページの内容に関し、保護者の感想や意見等を集約して、さらなる充実に活かしていくことが期待される。</p> <p>見学を随時受け付け、施設長または主任保育士、事務職員が案内を担当している</p> <p>見学の問い合わせは電話等で随時受け付け、都合の合う日程を調整したうえで、施設長または主任保育士、事務職員が当日の案内を担当している。なるべく子どもたちの実際の姿を見せようという時間の調整をしながら、パンフレットに沿って法人が目指す保育の理念やその実現に向けて力を入れている取り組み等を中心に説明している。パンフレットには写真画像が多く取り込まれ、子どもたちの生き生きした姿を伝えるレイアウトの工夫が見られる。法人では、すべての職員が自分の言葉で保育の理念等を説明できるようになることを目標に掲げている。</p> <p>定員に空きがない場合は、必要に応じて子育て支援事業や系列の他園を紹介している</p> <p>利用の希望を受けても定員に空きがなく、すぐに利用できない場合は、待機者リストに登録するかどうかの意思を確認のうえ、空きが生じた時点で、申し込み順に並んだリストの上位者から順次案内している。また、必要に応じて地域の子育て家庭を対象に実施している保育所体験等の事業の案内をしている他、市内にある系列の認証保育所を紹介することもある。利用希望者や見学者から育児に関する相談が寄せられることもあり、主に施設長が対応している。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p><b>利用契約の際の保護者との個別面談で、子どもの保育に必要な情報や要望を把握している</b>          利用契約の際に書面による重要事項等の説明と契約書類の取り交わしを行うとともに、保護者から保育に必要な情報の提供を受けている。子どもの食物アレルギーや健康状態を含め、子どもや家庭の状況について、専用のアプリまたは所定の書面を通じて提供された情報をもとに、施設長が保護者との個別面談をおこなっている。また、保護者が育児において気になっていることや保育に対する要望等を確認し、統一した記録用紙に記入して、職員間で情報を共有している。</p> <p><b>子どもが園の生活に慣れるための個別の対応や保護者に対する情報提供に配慮している</b>          新入園の乳児には、なるべく特定の保育士が関わるようにし、子どもとの愛着関係を築く中で園の生活に慣れるよう配慮している。慣れ保育は必須とはしておらず、保護者の状況や要望に応じて対応している。標準的には2週間程度かけて段階的に保育時間を延ばしている。法人全体として迎えの際にその日の子どもの様子を保護者にていねいに伝える取り組みに力を入れている。連絡帳に代わるスマホアプリを介した双方向の連絡ツールの活用により、保護者が子どもの園での様子を携帯端末で確認できることで安心感につながっている。</p> <p><b>卒園時は就学先に指導要録を送るとともに、必要に応じて個別の引き継ぎをしている</b>          年長クラスの子どもの卒園する際は個別の指導要録を作成して就学先の小学校に提供している他、特に配慮を要する子どもに関しては、対面または電話等の手段により小学校の教員に引き継ぎをおこなっている。途中での転園等の場合、必要に応じて子どもに対する個別の配慮事項等を所定の様式に記述し、保護者の同意のもとで転園先に情報提供する仕組みを法人として整えている。その他、園の行事等に卒園児を招くことで、馴染みのある場所に帰って来られる安心感を子どもと保護者に提供している。</p>			



サブカテゴリ-3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	

サブカテゴリ-3の講評		
<p>法人から配信された保育の全体的な計画と指導計画をもとに園の保育計画を作成している</p> <p>法人本部より毎年2月初めに次年度の全体的な計画と年間指導計画のひな型が各園に配信され、園の職員会議で当年度の振り返りをもとに次年度の計画を検討、作成する流れが明示されている。各クラスで月間及び週間の保育計画を作成のうえ、0～2歳児クラスと3～5歳児クラスのそれぞれのグループごとの会議で調整や見直しをおこなっている。法人の方針のもと、異年齢の子どもの育ち合いを保育の基本に据える中、日常の保育はクラスの垣根を超えて展開されており、今後は異年齢保育の計画作成等により、さらなる連携の強化を図ることが期待される。</p> <p>日々の保育記録が個別の保育のねらいを踏まえた内容になっているかの検証が望まれる</p> <p>各クラスの月間指導計画を踏まえて個別の月案または週・日案を作成し、日々の保育記録をもとに振り返りを行い、次期の計画につなげる仕組みを整えている。また、毎月すべての子どもの発達状況を児童票の項目に沿ってチェックするとともに、子どもの姿の変化等を個別に記録している。法人の方針のもと、保護者からの開示請求を前提に質の高い記録を残すことを目指しており、法人全体の研修等でスキルアップに取り組んでいる。今後、日々の記録が個々の保育のねらいに沿ったものになっているかを検証のうえ、さらなる改善につなげることを期待される。</p> <p>ミーティングやノートを活用して保護者との連絡事項や子どもの情報の共有に努めている</p> <p>専用のアプリや送迎時のやり取りを通じた保護者からの連絡事項を職員が所定のノートに記入し、クラス内での共有を図っている他、朝の活動開始時及び子どもの午睡時間中の会議で子どもの状況を報告し、全体で確認している。職員間の協議により、今年度から午睡中の乳児クラス・幼児クラスのグループごと及び合同での会議を開く曜日を固定したことで話し合いの効果を高めている。毎月の全体職員会議ではクラスごとの状況報告の他、子どものケガや事故等の防止対策や保護者からの意見・要望等に関する対応方法などを検討している。</p>		
サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
<p>評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>保護者より個人情報や写真使用の承諾を取るとともに取り扱いのマニュアルを備えている</p> <p>利用契約の際に、利用者の個人情報の使用目的や使用方法等について書面で説明し、保護者の署名をもって同意の意思を確認している。必要に応じて療育機関や医療機関等に個人情報の外部提供を行う際は、その都度、保護者の意思確認をおこなっている。また、園の毎月の通信等には子どもたちの日常の活動の様子を生き生きと伝えるために写真を多用しており、その際は顔写真のアップは避けるとともに、保護者より使用の承諾を受けている。法人として個人情報の保護に関するマニュアルを整備するとともに職員に対する研修を行い、周知に努めている。</p> <p>職員の基本的な接遇マナーや抑制的な接し方について教育の機会を設けることが望まれる</p> <p>法人として子どもの意思を尊重し、自分でできることを見守る姿勢を重視している。また、子どもを呼び捨てにしないことを謳っているが、子どもに対する望ましくない職員の態度があったとして、改めて職員に対し周知徹底に努めている。今回の利用者調査では、職員の子どもへの対応の他、保護者に対してはフレンドリー過ぎるという声が複数の保護者から寄せられており、職員の基本的な接遇マナーや子どもに対する抑制的な接し方について再度の教育の機会を設けることが望まれる。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>品質管理の仕組みのもとでの継続的な改善活動を通じて、業務の標準化に取り組んでいる</p> <p>法人として保育サービスの分野で国際的な品質管理の基準に沿った取り組みを継続的に行い、専門の認証機関による定期的な審査を受けている。また、所定の研修を受けた社員が法人の定める点検表に沿って毎年内部監査を行い、その結果を各事業所にフィードバックして、振り返りの材料としている。点検表には300以上の項目ごとに確認の方法が具体的に示されており、業務の標準化に対する法人の強い姿勢がうかがえる。今後、保育所保育指針や関係法令の改定を踏まえた用語や内容の見直しを継続的に図ることが期待される。</p> <p>保育品質マニュアルの活用や職員研修により日常業務や緊急時対応の標準化を図っている</p> <p>法人の定める保育品質マニュアルは、衛生管理、感染症、危機管理、虐待対応、苦情対応、保健計画、食育計画、給食提供の各領域で構成されており、入職時に正職員全員に冊子が配布されている。各自必要なページにインデックスをつけて素早く確認できるようするなど、工夫しながら活用している。また、緊急時の対応や通報のフローチャートを電話の近くに掲示している他、アドレナリン自己注射薬の練習キットを使った研修や園内に備え置かれた衛生用品の一式を使用した嘔吐物処理の実演訓練等を行い、職員が落ち着いて対応できるように努めている。</p> <p>マニュアルを定期的に見直す過程において、現場の意見を反映する仕組みを整えている</p> <p>法人として現場の職員の前向きな意見やアイデアを大切に、それらを積極的に取り入れて体験学習の企画や職員研修の内容に活かしている。保育品質マニュアルを毎年見直す過程においても、現場の意見を集約して改定につなげる仕組みを整えている。今後は法人全体で年1回、園ごとに実施する保護者アンケートの集計結果についてもマニュアルを見直す際の材料に活用することが期待される。また、相当な分量のある保育品質マニュアルについて、その内容が細部にわたって現場に周知されているかを点検し、現状の把握につなげるのが望まれる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35 / 35
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(000000)	
	評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの状況を把握したうえで個々に応じた保育に努めている</p> <p>子ども一人ひとりの状況の把握について、家庭環境や健康状態などは児童票に記録され把握されている。個々の発達の様子は、連絡帳や、保育日誌などから担任が毎月、個人記録に記載しており、毎月の会議でも各クラスから報告され、職員全員が共有している。0歳児クラスから2歳児クラスまでは毎月、個別のねらいが示されており、個々のねらいに応じた保育に努めている。3歳児クラスからは年齢別の月のねらいに基づいて保育が行われ、個別の配慮にも心掛けている。</p> <p>子どもが主体的に遊べるような環境構成の工夫に取り組んでいる</p> <p>法人の理念でもある「人間力」と、子どもが「自分で考え、行動する思考」を身につけるためには、子どもが自分の意思で自分の遊びたい場所を選べる環境が必要として、法人全体で“ゾーン保育”に取り組んでいる。園舎のどこでも子どもが自由に行き来でき、自分の好きな場所で、好きな保育士や様々な年齢の子どもたちと関わりながら生活することを目指している。職員間で子どもの様子を見守りながら遊びの環境構成を話し合い、室内に専用のコーナーを設けたり、園庭に可動遊具を置いて子どもたちが自由に遊びを発展させる工夫に取り組んでいる。</p> <p>近隣の小学校との計画的な交流活動を通じて、子どもの不安の軽減に努めている</p> <p>小学校との連携については、年間連携計画表に基づいて交流の機会を設けている。近隣の小学校の運動会や作品展、通常の授業風景の見学などを通して、年長児が小学校生活の様子を知り、入学に向けての不安を軽減すると同時に期待や憧れを持つことをねらいとしている。小学校への訪問は、年長児が小学生と交流し、一緒に遊んだり、ランドセルを背負わせてもらうなど、小学校が身近に感じられる機会となっている。保育士と小学校の教員との交流も行いながら、小学校の教員が年長児とともに遊ぶ機会も設けている。</p>			



2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>朝の受け入れ時に保護者とのやり取りや視診を通じて子どもの状態把握に努めている</p> <p>朝7時から開園し、8時頃までは0歳児から5歳児まで合同で過ごしている。連絡帳アプリを通じた保護者からの情報と併せ、朝の受け入れ時は早番担当の保育士が子どもの健康状態等について視診や口頭での確認をおこなっている。子どもの在園確認のために、受け入れ時に子どもに名札を付け、降園時に外して園で保管している。保護者からのクラス担任への申し送り事項がある場合には、早番担当が「伝達ノート」に記入し、担任が出勤の際に確認し、共有している。職員全員に周知されるべき事項は昼礼などで改めて報告され、全体への周知を図っている。</p> <p>その日の日中の保育の様子を写した画像を専用のアプリを通じて保護者に配信している</p> <p>その日の日中の保育の様子について、専用のアプリを通じて写真画像に簡潔なコメントが付され、5時頃には保護者全員に配信されている。各クラスではその日の子ども全員の様子が伝わるように写真の選び方等に配慮している。施設長は、写真に付されるコメントに関して、子どもの発達状況や保育のねらい等に沿った、より専門的な内容にしていく必要があると認識している。保護者に伝言がある場合には、担任が「伝言カード」を子どものカバンにつけ、伝達ノートに内容を記入し、確実に遅番が伝えられるようにしている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>広い園庭で子どもたちが全身を使って自然の感触を楽しみながら遊びを発展させている</p> <p>もともと雑木林だった広い園庭には自然の樹木が所々残され、子どもたちが登って遊んだり、太い枝から吊るされた手作りのブランコは人気の遊び場になっている。ほぼ中央に位置する1メートル程の高さの土の築山は格好の泥遊びの舞台にもなっており、水を流して滑り下りる遊びに全身泥だらけになりながら興じている。自分で歩けるようになった小さい子どもたちも、職員に見守られながら自分の背丈より高い築山に自力で這い上がろうとしている。その他、可動式の古タイヤやバスマットなどを使って、子どもたちが自分たちで遊びを工夫し、発展させている。</p> <p>年長児は「がんばりデイ」の活動を通して集団活動に意欲的に取り組んでいる</p> <p>幼児クラスでは、年長児がリーダー的存在となり、異年齢の集団生活における様々な場面で年下の子どもたちの手本となっている。毎週金曜日には「がんばりデイ」と称して、年長児が集まって話し合う時間が設けられている。参加の子ども全員の顔が見えるように車座になり、一人ひとりの意見を聞き合えるようにしている。その後、みんなで一緒にゲームをしたり、自分のロッカーの整理をしたりと年長児の活動が行われている。また、作品展に向けての話し合いや制作の過程を通じて、皆で作り上げる楽しさや喜びを分かち合えるように取り組んでいる。</p> <p>自然に恵まれた周囲の環境を生かした戸外活動を展開している</p> <p>園の周辺には保全林があるなど緑に恵まれ、四季折々の草花や樹木の変化を感じながら近隣の公園に散歩に出かけている。小さい子どもたちも職員に見守られながら自分で身支度を整え、靴を履き、友だちや職員と手をつないで、公園までの距離を歩いている。広い野原のある公園では、子どもたちが自然と駆け出し、伸び伸びと遊ぶ姿が見られた。園庭でも春にはプランターで育てている花が咲く、夏には畑の野菜が成る。カブトムシの幼虫を見つける、秋にはどんぐりや枯れ葉がたくさん落ちてくるなど、子どもたちが身近に自然を感じられる環境となっている。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>運動会では日常の活動の中から子どもが自分で目標を設定し、それぞれの成果を披露した</p> <p>秋の運動会と年明けの生活発表会が園にとって2大行事となっている。運動会では、子どもたちにどんなことをやりたいかなど意見を聞きながら、演目の内容を決めている。日常の保育の中で取り組んでいる活動の中から子ども自身が「やってみたい」と思い、頑張った姿を披露できるよう工夫している。演目の一つとして、2歳児から5歳児までが同じ道具や器具を使い、それぞれの子どもができる動きでサーキットを完走した。タイヤや梯子、鉄棒、跳び箱等で一人ひとりが自分に合った目標を設定し、それぞれが頑張っている姿を披露した。</p> <p>行事や野菜作りの活動は、子どもたちが皆で協力しながら楽しむ経験となっている</p> <p>運動会でのリレーやダンスなどは、子どもたちの意見も聞きながら、年長児を中心に皆で協力して頑張る姿を披露した。その他の行事や日頃の活動においても、子どもたちが協力してやり遂げる場面を多く設けている。畑で育てた野菜を皆で収穫したり、プランターで育てた稲を刈って協力して脱穀し、おにぎりにして食べるなど、畑の活動は皆で楽しみながら力を合わせ、食への関心にもつながる経験となっている。2月に予定されている発表会でも子どもたちの意見を聞きながら日常の生活の様子を皆で話し合い、劇にしてい予定である。</p> <p>年間計画表の配布等で保護者に事前に行事に関する情報を提供し、協力を仰いでいる</p> <p>年間の行事計画表を年度初めに保護者に配布して日程を知らせている他、その都度、専用のアプリや書面の通信によって行事の内容等を事前に案内している。保護者の行事への参加率は高いものの、以前実施されていたお泊り保育や銭湯の日の行事がなくなったことを惜しむ声の他、きょうだいが市内の系列園に通っている保護者からは、行事の日程が重なることに対して改善を求める声も寄せられている。保護者が主体となって開催される園のおまつりでは、子どもたちが楽しめるように保護者と職員が企画づくりや当日の運営で力を合わせている。</p>		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当	
評価項目5の講評			
<p>子どもが夕方からの合同保育の時間を楽しく過ごせるように環境の工夫に努めている</p> <p>夕方4時半頃から合同保育となり、全員の子どもが同じ部屋で過ごしている。夕方からの保育室の環境構成は保育士が話し合って決めており、ホワイトボードに玩具やコーナーの配置が示され、職員が共通認識をもって準備や保育に当たっている。一つの部屋をいくつかのコーナーに分け、動と静の遊びのバランスも考慮している。さまざまな年齢の子どもと一緒に過ごす中、2歳児から5歳児までは日常的に活動を共にしているので、自然に関わり合いながら遊んでいる。夕方以降の時間だけ遊べる玩具もあり、それを楽しみにしている子どももいる。</p> <p>保育時間の長い子どもがくつろいで過ごせる環境設定の工夫や個別の配慮が期待される</p> <p>夕方からの合同保育では異年齢の子どもたちが一つの部屋で過ごしており、人数の多い時間帯は賑やかになる。遅番の職員は全体を見ながら安全管理にも気を配っており、職員の声も大きくなりがちになる。日中の活動量が多いため、保育時間が長くなると疲れが出てくる子どももいるが、そうした時に静かに落ち着いて過ごせる場所の確保や環境設定に課題を残している。園では子どもが疲れた時にくつろげる空間を用意したいと考えており、子どもの個別の状況に応じて、より適切な対応が行われることを期待したい。</p>			
6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	
評価項目6の講評			
<p>年中・年長児は食事ルールの配膳コーナーで自分で盛り付け、テーブルを囲んでいる</p> <p>0～2歳児クラスの子どもたちは保育室で、3歳児クラス(秋の運動会後は2歳児クラス)から上の子どもたちは食事ルームで、園内で調理された給食と一緒に食べている。ランチタイムは12～13時前後に設定され、遊びが終わった子どもから配膳コーナーで自分の食べられる量を盛り付け、トレイに載せて自分の好きな席まで運び、食べ始めている。子どもたちが「ここ空いてるよ」と声を掛け合い、異年齢の子どもたちが一つのテーブルを囲んでいる。食物アレルギーのある子どもの席は決まっており、職員がいちばん先に配膳して、誤食の防止に努めている。</p> <p>食材にこだわり、子どもの生きる力の源となる安心安全な給食の提供に努めている</p> <p>法人として「美味しく楽しく食事を摂る」「食欲がある」「旬を味わう」「国内産・高品質の食材」「日本人らしい食事」を大切に考えている。栄養士が月ごとの献立表を作成し、子どもの喫食状況を毎日確認するとともに、月1回の給食会議で振り返りを行い、献立や調理方法等の改善に活かしている。おやつも手作りを基本とし、シソやおかかのおにぎり、甘納豆蒸しパン、揚げパン、おからドーナツなど、午後もしっかり活動ができるように、ボリュームのあるものとなっている。食物アレルギーのある子どもには医師の診断書に基づいて除去食を提供している。</p> <p>季節に合わせた多彩な活動や体験を通じて、子どもたちの食への興味や関心を育てている</p> <p>年間食育計画を基に、子どもたちの食への興味・関心を育む活動に取り組んでいる。畑やプランターで野菜を育て収穫することから、自分たちが給食で食べる食材の簡単な下処理や調理へと経験を広げている。また、夏にはアイスづくりを行ったり、秋にはさつま芋掘りをした後に園庭で焼き芋を、冬には畑で採れた大根を園庭で煮て風呂吹き大根にして食べるなど、季節に合わせた活動を通じて食の楽しさを味わっている。さらに、みそづくりやコメ作りなど、日本の食文化に触れる多彩な体験を通して、子どもたちの食への興味や関心を育てている。</p>			



7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
<p>子どもが自分の健康維持に必要な生活習慣等の定着に計画的に取り組んでいる</p> <p>乳幼児突然死症候群を予防するための午睡中の呼吸チェックの結果を専用アプリで保護者に毎日伝えている他、内科検診(0歳児は毎月、1歳児からは年2回)、歯科検診(年1回)及び毎月の身体測定の結果を保護者に伝え、必要に応じて受診の勧め等をおこなっている。また、看護師が立てた年間保健計画に基づき、手洗いやうがい、歯磨き、鼻のかみ方など、子どもが自分の健康維持に必要な生活習慣等を身につけるための指導を紙芝居や歌などを通しておこなっている。乳児クラスでは手洗いなどを職員と一緒にやりながら定着に取り組んでいる。</p> <p>食物アレルギーや特別な配慮を要する子どもに、専門機関等と連携して対応している</p> <p>子どもの薬の預かりに関しては、原則として医師の処方薬に限り、薬剤情報書等の提出を条件に保護者から一日分を預かり、職員の管理のもとで与薬している。熱性けいれんがある子どもや食物アレルギーのある子どもの処方薬も預かり、緊急時に職員が適切に対応できるよう、注射薬を打つ訓練を毎月おこなっている。食物アレルギーのある子どもについては、職員全員に周知するために、事務室のドアに子どもの顔写真とアレルギーが明記されている。また、特別な配慮を要する子どもについて、市の専門機関の巡回指導を受け、助言をもとに保育に当たっている。</p>			
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保育の利用に際して保護者の手間の軽減を図るとともに、柔軟な受け入れに努めている</p> <p>保護者の手間を軽減するため、入園時及び利用の日または週ごとに家庭で用意するものはシーツや最小限の着替え等に抑えている。朝の登園時間を原則として8時半までとしているが、当日の状況等に応じて柔軟に対応している。近隣の公園に散歩に出た後の登園の場合は保護者に散歩先まで連れてきてもらうこともある。保育時間の変更や昼食の夕食の予約・キャンセルの連絡は専用のアプリまたは電話により受け付け、対応している。土曜日の保育は体制を確保するため、必要な時間帯の事前予約を原則としているが、保護者の就労を利用の条件とはしていない。</p> <p>日々のコミュニケーションを大切にすることで保護者との関係づくりを心掛けている</p> <p>保護者懇談会を年2回、平日の17時から0・1歳児クラス、18時から2～5歳児クラスの2回に分けて実施している。2回目となる11月末の懇談会では7月から11月までの指導・取り組みとその成果について園から説明した後、保護者間の懇談が行われている。前半の説明の際に配布される資料は、年間指導計画等に基づき法人本部が作成した共通のベースを園の実情に沿って補正している。今回の利用者調査では、子どもの保育内容についての説明がわかりやすいとの回答は約55%にとどまっており、原因の分析と改善に向けた検討が期待される。</p> <p>毎月発行の通信で育児の参考となる情報を提供している他、保育参加等を呼び掛けている</p> <p>毎月4種類の通信を発行し、専用のアプリ等で保護者に公開している。1日発行の「どろんこだより」では当月の予定と写真画像での前月の活動紹介の他、法人の保育に関する考え方を具体的な事例に即して説明するコーナーを設けている。25日に発行される法人共通の「保健だより」と「食育だより」では、時季に沿った保健情報や法人全体の食育活動の紹介等、育児の参考となる記事を掲載している。また、園で実施している保育参加の他、法人全体で開催している職員向けの保育のスキルアップ講座の一部を一般公開し、保護者にも参加を呼び掛けている。</p>			



9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>商店街や老人施設などの施設を訪れて地域の人との交流などを経験している</p> <p>法人の保育目標の一つに、他者と積極的に関わる意欲とコミュニケーションをとるための表現力を掲げ、子どもたちが園外に出て、多くの人と会って話をする機会を重視している。近隣の公園までの道で顔を合わせる人には職員が率先して気持ちの良いあいさつする子どもに見せている。世代間交流として年2回、市内のデイサービスセンターを訪問し、子どもたちが高齢者と交流している。</p> <p>実習生やボランティア、地域活動事業の参加者など、さまざまな世代の人と交流している</p> <p>保育士養成校からの実習生や市内の小・中学校や高校からの体験ボランティアなどを積極的に受け入れており、毎年多くの児童・生徒、学生が子どもたちと関わっている。また、子育て支援事業として、地域の子育て家庭の親子を対象とした保育所体験や青空保育の参加者が、園内や近隣の公園での活動で園の子どもたちと一緒に遊ぶこともある。さらに、地域活動事業として、プロの演奏家などを園に招き、音楽鑑賞会や狂言、人形劇などを開催して、地域の人たちにも参加を呼び掛けており、子どもたちがさまざまな世代の人と交流する機会が設けられている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	職員一人ひとりの学びを共有し、チームの活動に活かす取り組みをおこなっている	
内容①	毎月の職員会議の中で実施される園内研修では、職員が持ち回りで担当し、共通理解の必要な保育課題についてテーマを絞り、グループワークやプレゼンテーションを取り入れた研修をおこなっている。「お散歩マップを作る」「子どもの目線で保育環境を考える」等のテーマに沿ったワークショップやグループワークを展開しプレゼンテーションを行うことで、チームとしての共通課題を理解するとともに、「自分の仕事に自信と満足を感じる」「自ら関わることで園が変わり、保育が変わるという意識を持つ」との目的も意図されている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル②	法人として年長児に対する性教育を実施するとともに当園では命の教育に力を入れている	
内容②	法人では10年以上前から年長児を対象に性教育を実施している。子どもが大人から性被害を受けるリスクに加え、性に関する不適切な情報に家族のスマホ等で簡単にアクセスできてしまう状況において、子ども間での性被害のリスクが高まる中、身近な大人が子どもに対し健全な性に対する知識を伝えることが何より重要として、指導のポイントを具体的に整理し、5歳児に対する保育において実践するとともに、その内容を保護者にも伝えている。当園では、命の大切さを伝えるために、戦争や東日本大震災を題材にした絵本等を使った教育にも力を入れている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	近隣の店舗等を訪問して、そこで働く大人と交流を図る取り組みをおこなっている	
内容③	子どもたちが地域社会を支える人々のさまざまな仕事を知り、知りたいことを言葉にして相手に伝える体験をする「商店街ツアー」と称する活動に法人全体で取り組んでいる。子どもが自分の暮らす街にあるいろいろな店舗や会社、施設等を訪れ、そこで働く大人に仕事について質問し、交流を図る活動を週1回実施している。当園でも近隣のスーパーや花屋、文具店、魚屋、コンビニ、青果店、弁当屋などを子どもたちが訪問する中で、地域の中に顔見知りの関係が着実に広がっており、子どもたちの育ちを地域社会が支える土壌の形成に資する活動となっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの生きる力の基盤となる強い体を育てるとともに、自然にあるものに関わりながら人間本来の感覚を育てる保育を展開している
	内容	子どもの生きる力の基盤となる強い体を育てることを目的として、園では毎日裸足で生活し、足の指でしっかり地面をとらえる力を養うとともに、長距離の散歩に取り組んでいる。広い園庭では木登りをしたり、土の築山に水を流して泥の斜面を滑り降りるなど、子どもたちが全身を使って感覚を楽しむ遊びに興じている。冬には庭で焚火を囲んで体を温めたり、皆で畑で収穫した芋を焼いて食べるといった経験もしている。火・水・土といった自然にあるものに関わりながら、バーチャルでない人間本来の感覚を育てる保育を展開している。
2	タイトル	子どもが自分の過ごしたい場所を選択し、好きな人と好きな遊びに取り組む姿を見守る保育と、そのための環境設定に力を入れている
	内容	子どもが自分で考え、行動する思考を身につけるために、園内のどこでも自由に行き来でき、自分の好きな場所で、好きな保育士やさまざまな年齢の子どもたちと関わりながら生活する姿を見守る保育と、そのための環境設定に力を入れている。職員間で子どもの興味の状態を話し合ったうえで、室内にはブロック遊びや絵本、製作のコーナーなどが設けられている。また、園庭には既製の固定遊具は置かず、自然な状態の中でどこでも砂遊びや泥遊びができ、古タイヤやバスマット等の可動遊具を使って子どもたちが遊びを自由に展開できるように工夫している。
3	タイトル	食育を子どもに命の大切さを伝える教育の一環と位置づけ、食への興味・関心を育む活動に計画的に取り組んでいる
	内容	食育を子どもに命の大切さを伝える教育の一環と位置づけ、食への興味・関心を育む活動に計画的に取り組んでいる。子どもたちは畑やプランターで野菜を育て収穫することから、自分たちが給食で食べる食材の簡単な下処理や調理へと経験を広げている他、魚をさばく場面を実際に見ることで、命あるものを食することの意味を感じ取っている。また、春にはよもぎ団子、夏には梅ジュースづくり、秋には焼き芋や稲刈り、冬にはみそや切り干し大根づくりなど、日本の伝統的な食文化に触れる体験を通して、自然の恵みに対する感謝の気持ちを深めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園が力を入れる「命の教育」やインクルーシブ保育を通じて、すべての子どもの尊厳が等しく守られる保育のより一層の推進が期待される
	内容	市の専門機関に依頼し、特別な配慮を要する子どもに対する支援についての助言を定期的に受けるなど、適切な対応に努めている。園では、命を大切にしている教育やインクルーシブ保育に重点を置いており、今後、日頃の保育や集団生活を通じて、すべての子どもの尊厳が等しく守られる関係性を育む保育のより一層の推進と、職員のさらなる資質の向上が期待される。
2	タイトル	法人の方針を踏まえ、異年齢の子どもの育ち合いを引き出す指導計画の構成と個別の保育のねらいの保護者との共有に向けた検討が期待される
	内容	乳児クラス以外は異年齢保育を基本としているものの、年間及び月間指導計画は年齢別に作成されている。異年齢の子どもたちがともに生活し、遊び、労働を教え合うという法人理念の実現を図るためには、保育を通じて子どもたちの育ち合いをどのように引き出していくかという視点に立った指導計画の構成と、それに基づく計画的な保育の展開が望まれる。また、家庭と連携しながら子どもの生きる力の基盤形成を支えるためには、個別の保育計画における月ごとの保育のねらいを保護者と共有することが重要と考えられる。その現実的な方法の検討が期待される。
3	タイトル	園の取り組みのねらい等をよりいねいに、わかりやすく保護者に伝える努力が期待される
	内容	法人全体として降園時にその日の子どもの様子を保護者に伝える取り組みを重視し、園では担任が1週間の中でクラスの保護者全員とコミュニケーションを取るように心がけている。年2回の保護者懇談会では、年間指導計画等に基づく資料に沿って園の保育を説明している。しかし、今回の利用者調査では保育内容についての職員の説明がわかりやすいとの回答は約55%にとどまっている。日々の保育については多くの保護者が満足している様子がうかがえる中で、今後は園の取り組みのねらい等をよりいねいに、わかりやすく保護者に伝える努力が期待される。